＜様式２＞

令和３年度　さいたま市立大成中学校　学校関係者評価書

さいたま市立大成中学校
学校関係者評価委員長

１　学校関係者評価の実施体制

（１）構成人数　　７人

［本校ＰＴＡ会長、さいたま市立大成小学校長、さいたま市立大成公民館長、校区内自治会連合会長、大成地区体育振興会長、青少年育成大成地区副会長、大成地区主任児童委員］

（２）実施回数　２回　　［第１回：令和３年６月１日　第２回：令和３年１２月７日］

［第３回：令和４年２月８日実施予定であったが、感染状況により未実施］

※小中合同学校運営協議会準備委員会として実施

２　学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

今年度は大成小・中学校運営協議会準備委員会として、小中学校合同開催され、学校・家庭・地域それぞれの役割や取組について熟議している。

（１）各学校の学校経営方針について

○「快活に」➡　生徒アンケートにある「学校に来るのが楽しい」「学校行事に積極的に参加している」「部活動に積極的に参加している」等の設問に対して、おおむね全体の 90%以上となっており、長引くコロナ禍において学校活動が制限されている中でも、生徒たちが前向きに学校生活に取り組んでいることがうかがえる。

○「やさしさと思いやりがある」➡　同じく生徒アンケートより、「学校で友人と楽しく話す、活動する」「あいさつ」「やさしさと思いやりをもって人に接しようと心がけている」についておおむね全体の 85%であり、学校生活の様子や保護者、地域の方との関わりでも生徒のやさしさや元気さを見ることができ、とても素晴らしいと感じている。小中と一緒にいる環境が長いからこそ、人との関わりの温かさ、大切さを感じていってほしいと願う。

○「希望をもち」➡　一方でアンケート設問「将来についての希望」について、全体の 70%超にとどまり（特に 1 のとてもあてはまるは、35%と他の設問と比べてとても低い）長引くコロナ禍の影響が強いと思われるが、部活動（特に大会や発表の場の減少）、学校行事の制限（実行委員会をはじめとする生徒中心の動きの減少）により、目標等を見つけるのが難しい環境にあり、学校・保護者の連携・協力を一層強化して、できる限り実現できる方法を模索したい。

（２）大成小・中一貫教育について

大成地区一小一中の環境で、小学校と中学校の関わりが多く、小学校から中学校への学校生活や勉強への不安の解消、また、中学生にとってはやさしさや思いやりをはぐくみ、人との関わりの大切さを知る良い機会となっていると思う。しかし、これもコロナ禍の影響を受け、例年できていた取組ができないことが多く、地域との連携をとりながら実現できるように努力していく。

長引くコロナ禍で、オンライン授業の導入や学校行事の中止・変更など生徒を取り巻く環境が大きく変わった今年度において、生徒たちが前向きに希望を持って学校生活が送れるよう見守っていきたい。

学校関係者評価を受けた学校の対応

今年度もコロナ禍において、学校行事に制限や中止があったが、昨年度に比べ感染対策を十分行いながら、オンラインを活用するなど、実施方法を工夫して行うことができた取組が増えた。

このような状況下、子どもたちの多くが「学校へ来るのが楽しい」と思っているということは、学校の指導だけではなく、家庭や地域の支えや見守りがあるからこそである。今後も子どもたちが意欲的に取り組むことができる教育活動の向上を目指し、コロナ禍における授業の工夫や改善を行っていく。また、今年度は学校運営協議会準備委員会を小学校と合同で行い、地域の目指す子ども像を熟議し、来年度のコミュニティスクール完全実施に向けての基礎ができた。

目指す子ども像に近づけるように地域と連携を図りながら、その育成に当たりたい。

さいたま市立大成中学校長